

## さろん哲学#72 「困っているひとを応援するには？」

2016年8月28日(土)

カフェ・ミヤマ渋谷公園通り店

参加者：12名

進行・文責：せりざわ

## 1. 概要：

- ・初参加者3名を含む計12名が参加。
- ・リオ五輪で盛り上がる時期で“応援”という言葉がよく使われているが、そもそも“応援”にはどんな意味があるのか、どれだけの広さと深さをもって使われているのか、応援の具体的な機能にはどのようなものがあるのか、について話し合った。
- ・進行役のこのテーマについての動機説明を行い、より具体的に“困っているひと”を対象を絞って話し合いをスタートした。

## 2. 対話：

- 1)、初期テーマについての参加者の印象その他(感想、意見、疑問点)を確認するため、全員に順にコメントをうかがった。下記のとおりである。
  - ・困っている人を「助ける」と「応援する」の違いはなにか。
  - ・応援は助けることなのか、そっと見守ることなのか。幅広い。
  - ・応援の必要条件は「共感」と「私たち」と思えるかどうかではないだろうか。困っている人は全世界にいるが、ソマリアの難民を“私たち”とは思えないのではないか。
  - ・応援は年がら年中あってオリンピックに限らない。だから四六時中、実は誰か(なにか)を応援しているような気もする。五輪は経済復興を応援する意味でも、ギリシアでやればいいのに。
  - ・応援するって具体的になにをすることだろうか。あまりしていない気がする。
  - ・応援はあくまで気持ちの問題ではないか。具体的なアクションがなくても「応援してる」と本人が思えばそれはもう応援していることになるのではないか。
  - ・応援はなにかこう間接的な気がする。あくまで当事者にはならない、ギャップがある。
  - ・困っているひとがいると応援したくなるが、それ以外のことで誰かを応援したいとは思わない。
  - ・「オリンピックだから」応援する、というのは本当の応援ではないのではないか。
  - ・困っていることは自分自身にもたくさんある。盛会で一番困っているのは「私」。
- 2)、前項の印象や感想について次のような指摘が挙げられた。
  - ・困っているひとを応援するというときに自分の立場が鮮明になるような気がする。
  - ・応援には対象の不安を理解してあげるようなことも含まれるのではないか。
  - ・応援と祈り(pray)にはなにか共通するような部分がある気がする。
  - ・似た言葉に「支援」と「助ける」があるがどう違うだろうか。
  - ・例えば応援団は「がんばれ!」を専門とするが、そこには勝敗がつきもの。このこと(競争)と応援とはどんな関係があるだろうか。
- 3)、A.駅のホームで視覚障害者を助ける(会社でPCスキルを教える)と「B.熊本の被災地のひとへ募金する」という2つの事例からの検討
  - ・支援には「a.本来の力を発揮するところまで回復する」と「b.平常時からさらに上へ伸びていく」とどちらの意味もあるように思うが、このふたつは本当に同じか。
  - ・応援に助けるという要素があるのであれば、「直接手を出す」ということも応援になるのでは。
  - ・私(たち)は当事者にはなれない。なれないからこそお祈り(≒共感)というものが浮上してくるのではないか。そのことで対象/当事者とのあいだをつなぐのではないか。
  - ・Aのケースでは対象の反応を見ながらの手助けができるが、Bでは顔の見えないなにかモヤモヤとした黒い塊(イメージ)に対して向き合っているような不気味さがある。反応が見えない。
  - ・Aのケースでは当事者/対象と直接コミュニケーションがとれるので、自分の「応援」という気持ちを、結果の遺憾に関わらず、明確に伝えることができる。
  - ・Aのケースではする側とされる側というのがはっきり分かれるが、Bでは相手が見えない分だけそこがあいまいになる。
  - ・直接的な場合(A)と間接的な場合(B)があるが、それに関わらず自分が応援していると思えばどちらも応援。
- 4)、前段までの考察を踏まえた「応援」の仮定義によって、「私」が困っているときに必要な対応を得られるか?
  - ・当事者以外が気持ちだけで応援をしていた場合、AのケースでもBのケースでも、困ってひとが必要な支援を受けられない可能性が濃厚。
  - ・応援はあくまで気持ちの問題であり、助けるとか支援というのは応援には含まれないのではないか。
  - ・どんな風に助けるか、応援するかは幾つもの方法があって一定の回答を出すのは困難。
  - ・常にアンテナを高く張って社会とかかわっていくのが大事ではないか。
  - ・阪神大震災の経験者など、具体的な困った体験に見聞きし、継続的に触れて学んで行くのが大切だと思う。

## 3. まとめ：

- ・応援の持つ多様な側面について、参加者から多様な意見や考察を伺った。
- ・応援は自分の気持ち次第(表に出さなくても応援)とあったが、それと祈るとの差異はどこか、などを掘り下げることで意見の反転が見られた可能性もあり、今後の考察点として残った。
- ・「応援とは対象者の不安を理解してあげることも含まれる」という指摘があったが、こういうケア的な要素と応援の関係性という視点については深堀りができなかつたので、次回以降の対象としたい。
- ・応援(ヘルプ/サポート)とスキルの問題。「私たち」という共感の可能性を押し広げるためのスキルにはどんなものがあるか、修得の可能性をどう見出せるか。「困っているひと」を対象とした場合に、この点をさらに探求しなければならなかつたが、時間的制約・対話の流れ・場の中心的話題等の点から踏み込めなかつた。次回を期したい。

以上